

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

事業番号	024 -	事業名	国際化事業		担当部課	くらし文化部たつせがある課		
基本情報	第5次総合計画・基本方針	✓ 文化をみがき、人が輝くまち	会計区分	一般会計				
	まちづくり行程表・フラッグ	✓ 「つながり」～一人ひとりに役割と居場所があるまち～	予算区分(款 - 項 - 目)					
	第6次総合計画・基本目標	✓ 「やってみたい」でつながるまち	2-1-10 国際化事業費					
	法定受託事務の有無	-						
	その他(関係計画、要綱等)	✓	長久手市国際交流協会運営事業費補助金交付要綱					
	事業開始の背景、経緯等	平成4年度にベルギー王国ワールロー市と姉妹都市友好提携を結び、交流を続けている。市内外国人や留学生と市民との交流を推進する事業を実施している。また、平成6年度に設立した長久手市国際交流協会の活動を支援するため、補助金を交付している。						
事業目的等	事業内容	(どのような事業なのか) 市内に生活する外国人や留学生と市民との交流を図りながら、次の多文化共生に係る事業を推進する。 ①ベルギー王国ワールロー市との姉妹都市交流 ②国際交流協会						
	事業対象	(誰、何を対象にしているか) 市民						
	事業意図	(対象をどのような状態にしたいか) 国際交流に対する関心、相互理解を深める。						
	事業を構成する事務事業(B票)	① 国際化事務事業	拡充	④				
	② 国際交流協会補助事業	改善・見直し	⑤					
	③ 姉妹都市事業	改善・見直し	⑥					
コスト推移	項目	単位	区分	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
	事業費(A)	千円	予算	9,590	7,652	5,933	11,452	5,281
			決算	8,565	3,022	3,294	10,365	
	人件費(B)	千円	決算	9,166	5,729	5,960	6,881	
	総コスト(A)+(B)	千円	決算	17,731	8,751	9,254	17,246	
成果推移	成果指標	単位	区分	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
	A 国際交流協会事業参加者総数	人	目標	3,500	4,400	3,300	5,000	5,000
			実績	4,000	3,000	5,000	5,500	
	B		目標					
			実績					
	C		目標					
		実績						
	【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など)							
	A 国際化事業として具体的に市民参加している国際交流協会事業への総参加者数を、その成果指標とする。							
	B							
	C							
環境変化	他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 近隣の実施市町: 瀬戸市、日進市、尾張旭市、東郷町、豊明市							
評価	目標達成状況	(成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 国際交流協会事業の参加者実績は、姉妹都市の関連事業を共同で実施したり、市民と協力して広報等を実施することで、増加につながった。						
	過去5年間の振り返り	(過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 国際交流協会事務局体制を市から市民、民間に移すための方策を検討してきた。ワールロー市と青少年訪問団の派遣など交流を続けている。						
	事務事業全体を見た課題	(構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 市民主体の事業形態とするのを目的に市国際交流協会事務局を分離・独立させるために、市と協会の事業を明確化し、独立のための具体的な方策を検討する必要がある。						
今後	今後の方向性	(事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 市が行う国際化事業の明確化、及び市国際交流協会の市から事務局分離独立についてスケジュールを明確化する。姉妹都市交流は、青少年訪問団派遣以外のイベント・交流事業の検討をする。						
	中長期の目標	(いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 国際交流協会事務局独立への円滑な移行、また、独立後より良い運営となるための準備を完了する。						

内部意見	総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見	<ul style="list-style-type: none">・令和元年度からは、第6次長久手市総合計画の基本構想・基本計画を踏まえて、事業を進めてください。・国際交流協会の自立を促進してください。・ワートルロー市の姉妹都市交流について、開催頻度などを検討し、経費の節減に努めてください。
------	-------------------------	---

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

事業(A票)名	国際化事業		担当部課	くらし文化部たつせがある課	決算書ページ	—
事務事業名	①	国際化事務事業	予算区分	2-1-10 国際化事業費		
事務事業の期間	事務事業開始年度	平成4年度	終了(予定)年度	—		

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 市民及び行政が国際交流を行うための、大使館等への出張旅費、表敬訪問対応、国際郵便等の筆耕翻訳国際交流等を行っている。
意図	(対象をどのような状態にしたいか) 他団体との交流を通して、国際交流に対する関心、相互理解を深める。

2. コスト推移

項目	単位	区分	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
事業費	千円	予算 決算	451 259	789 212	789 308	878 139	1,387
<備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))>							
(1)		日本ベルギー協会負担金				50	千円
(2)		県国際交流協会負担金				30	千円
(3)		消耗品費				39	千円

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
表敬訪問回数	回	見込	3	3	3	3	3
		実績	2	1	1	1	
		見込 実績					
<備考：活動の概要(30年度(2018))>							
・平成30年度実績：カンボジア王国スヴァイリエン州副知事はじめ3人の表敬訪問受入(3/18)							

4. 事務事業を取り巻く環境変化

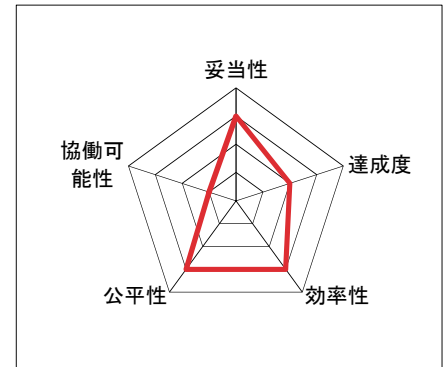
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 国では、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催に向け、スポーツ立国、グローバル化の推進、地域の活性化、観光振興等に資する観点から、参加国・地域との人的・経済的・文化的な相互交流を図るため、「ホストタウン構想」を展開している。
--

5. 前年度からの改善状況

(1) 財政状況		
(前年度【予算額】)	(今年度【予算額】)	(増減額)
878 千円	1,387 千円	509 千円
(2) 前年度の評価状況《参考》		
・前年度【今後の方向性】	拡充	
・前年度【コメント】	大使館やベルギー関連団体等との接触を図り、2020年の東京オリンピックに向けて、ホストタウン構想の推進に向けた取組を実施していく。	
(3) 改善状況		
(何をどのような状態に改善したのか)		
ホストタウンの実施に向けて、ワートルロー市への青少年訪問団派遣の際にワートルロー市の担当者や、駐日ベルギー大使館へ打診をした。		

6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	2
効率性	3
公平性	3
協働可能性	1



【協働可能性について】

(1) 市民参加の延べ人数(人)				
区分	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
見込	—	10	10	10
実績	—	50	0	
(2) 協働の状況(30年度(2018))				
(協働で取り組んだこと、評価できない理由など)				
駐日ベルギー王国や日本ベルギー協会とのやりとり、表敬訪問の実施のみであったため。				

【活動エピソード】

(活動のエピソード、コメント、特記事項など)
ホストタウンへの登録申請に向けて進んでおらず、事業計画・事業実施のための情報収集等を実施する必要がある。外国人住民の増加が見込まれることから、市の多文化共生事業を推進するため、多文化共生推進計画の策定を検討しており、学識経験者等への相談をした。

【改善ポイント】

(改善が必要なこと、改善の方法など)
市の多文化共生事業を推進するため、多文化共生推進計画の策定を検討しており、そのための事前調査やワーキングなどを平成31年度に実施し、市の現状を把握し、多文化共生事業を担う人材を確保する必要がある。

7. 今後の方向性

拡充

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

事業(A票)名	国際化事業		担当部課	くらし文化部たつせがある課	決算書ページ	—
事務事業名	②	国際交流協会補助事業	予算区分	2-1-10 国際化事業費		
事務事業の期間	事務事業開始年度	平成6年度	終了(予定)年度	—		

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 長久手市国際交流協会を、市民、大学、企業と行政とをつなぐパイプ役として位置づけ、協会に対し、事業費を補助する。
意図	(対象をどのような状態にしたいか) 協会が自主的・自発的に国際理解や国際協力のために必要な施策を展開できるようにする。

2. コスト推移

項目	単位	区分	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
事業費	千円	予算	4,796	2,923	2,970	2,923	2,923
		決算	4,796	2,688	2,970	2,923	
<備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))>							
(1)		市国際交流協会補助金				2,923	千円
(2)							千円
(3)							千円

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
国際交流協会個人会員数	人	見込	500	500	500	500	500
		実績	421	397	421	356	
		見込					
		実績					
<備考：活動の概要(30年度(2018))>							
国際交流協会実施事業：国際交流フェスタ(3/3)、弁論大会(12/9)、近隣大学留学生ホームステイ受入、機関誌作成、日本語教室運営(木・土曜日に月3回程度)など							

4. 事務事業を取り巻く環境変化

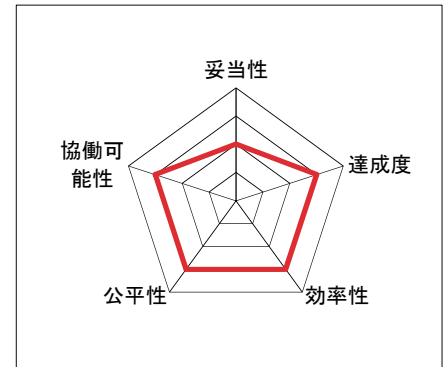
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
現在、協会事務を市職員が兼職で行っているが、専任の職員を協会に雇用し、より魅力ある国際交流事業を実施していけるよう取組中である。

5. 前年度からの改善状況

(1) 財政状況
(前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額)
2,923 千円 2,923 千円 0 千円
(2) 前年度の評価状況《参考》
・前年度【今後の方向性】 拡充
・前年度【コメント】
長久手市国際交流協会の事業内容の見直しや、事務局職員の増強を検討し、補助額を決定する。また、国際交流協会の事務の効率化を図り、独立を進めることにより、民間による幅広く多彩な事業展開の実現を目指す。
(3) 改善状況
(何をどのような状態に改善したのか)
独立に向けて事務局体制の変更など検討を進めていたが、人員配置等の問題により実現できていない。引き続き実現に向けて検討を重ねていく。

6. 評価

項目	評価
妥当性	2
達成度	3
効率性	3
公平性	3
協働可能性	3



【協働可能性について】

(1) 市民参加の延べ人数(人)				
区分	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
見込	4,400	3,300	5,000	5,000
実績	3,000	5,000	5,500	
(2) 協働の状況(30年度(2018))				
(協働で取り組んだこと、評価できない理由など)				
国際交流協会事業は国際交流フェスタや留学生のホームステイ受入、外国人児童への日本語支援など、多くの市民の協力により実施されている。				

【活動エピソード】

(活動のエピソード、コメント、特記事項など)
長久手市国際交流協会独立を視野に入れ、協会事業と市事業の区別を明確化し、予算計上を行った。長久手市国際交流協会では、独立に向けて自立した運営を模索しているが、ボランティアによって成り立っていることもあり、難航している。

【改善ポイント】

(改善が必要なこと、改善の方法など)
民間による協会運営・事業展開の実現のため、理事会等の人員補強等を進め、独立に向けて支援を続ける。

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票 (B票：事務事業評価票)

事業(A票)名	国際化事業		担当部課	くらし文化部たつせがある課	決算書ページ	—
事務事業名	③	姉妹都市事業		予算区分	2-1-10 国際化事業費	
事務事業の期間	事務事業開始年度	平成4年度		終了(予定)年度	—	

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 市民及び行政が姉妹都市ベルギー王国ワートルロー市との友好親善を深めるための訪問団相互派遣、国際郵便筆耕翻訳等を行っている。
意図	(対象をどのような状態にしたいか) 国際交流に対する関心、相互理解を深める。

2. コスト推移

項目	単位	区分	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
事業費	千円	予算 決算	4,343 3,510	3,940 122	2,174 16	7,651 7,303	971
<備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))>							
(1)	姉妹都市訪問団旅行等委託		6,075 千円				
(2)	姉妹都市訪問団現地調整委託		680 千円				
(3)	消耗品費		187 千円				

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
市民訪問団応募者数	人	見込 実績	10 10	— —	— —	20 20	— —
ワートルロー市からの訪問団受入数	人	見込 実績	— —	— —	10 —	— —	20
<備考：活動の概要(30年度(2018))>							
・ 青少年姉妹都市訪問団派遣 8/22~29							

4. 事務事業を取り巻く環境変化

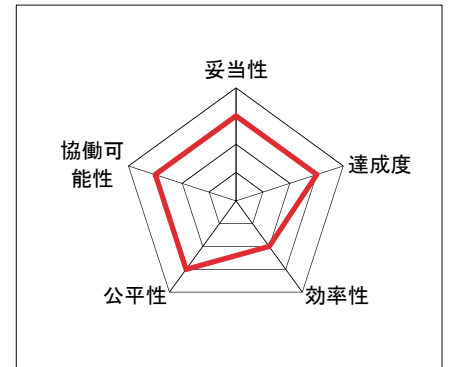
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 長久手市国際交流協会の独立を視野に入れ、姉妹都市交流については市事業として実施していく。
--

5. 前年度からの改善状況

(1) 財政状況
(前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額)
7,651 千円 971 千円 △ 6,680 千円
(2) 前年度の評価状況《参考》
・ 前年度【今後の方向性】 拡充
・ 前年度【コメント】 平成29年度はワートルロー市からの青少年姉妹都市訪問団を受け入れる予定であったが、ワートルロー市側の都合により中止となった。平成30年度は長久手市からの派遣を予定しており、市民への周知・啓発に努める。
(3) 改善状況
(何をどのような状態に改善したのか) 5年ぶりの青少年姉妹都市訪問団の派遣を実施するため、市民への周知に努め、ワートルロー市との調整を綿密に行った。

6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	3
効率性	2
公平性	3
協働可能性	3



【協働可能性について】

(1) 市民参加の延べ人数(人)				
区分	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
見込	20	40	20	40
実績	—	—	30	—
(2) 協働の状況(30年度(2018))				
(協働で取り組んだこと、評価できない理由など)				
青少年姉妹都市訪問団を20人派遣した。訪問団員と共に、国際交流協会や愛知県立大学の学生の協力を得て、訪問時のイベント企画や報告会等を実施した。				

【活動エピソード】

(活動のエピソード、コメント、特記事項など) 5年ぶりに青少年姉妹都市訪問団をワートルロー市に派遣し、交流を深めることができた。実施のために、国際交流協会や愛知県立大学の学生などの協力を得ることができた。

【改善ポイント】

(改善が必要なこと、改善の方法など) 平成31年度はワートルロー市からの訪問団を受け入れる予定であるため、ホームステイや市内観光、日本文化紹介等で市民の協力を得るために啓発や広報など進めていく必要がある。また、本市の魅力をより知ってもらえるよう、市内での交流事業等をより多く実施する必要がある。
--

7. 今後の方向性

改善・見直し